

令和元年度

学校評価報告書

智辯学園中学校・高等学校

学校法人智辯学園

1. 学校評価総括

建学の理念	「心身ともに健康で、使命感を持つ、誠実な人間を育成する」		
教育目標	1. 明朗で知性ある行動のできる人間の育成 2. 礼儀正しく、勇気をもって善を行い得る人間の育成 3. 不屈の精神をもって、使命のために努力し、充実した生活のできる人間の育成 4. 自己を確立しつつ、社会性豊かな人間の育成 5. 自由を愛しつつ、常に責任を重んじ合理性を追及し、人間性を失わず、友情に厚い人間の育成 6. この世に生をうけた幸福を知る人間の育成 7. 情感を培い、両親の愛情や隣人の善意に感謝し、奉仕の喜びを知る人間の育成		
これまでの成果と課題	<p>中学1年生においては、中学入試の生徒募集がS特別選抜、A B総合選抜と分かれたため、より能力別編成クラスとしての取り組み評価が問われるようになった。しかし、基本的な取り組みについては、昨年同様、中学校の基礎学力については、実力テストや小テストなどを利用した教員のきめ細やかな指導を重視し、丁寧な補習体制と個別指導を心掛けた。何よりも生徒とのコミュニケーションを大切にし、生徒との信頼関係を構築することに努めた。中学校においては、生活リズムの乱れがそのまま学習習慣に影響するので、生活面の指導を強化した。早期発見・早期指導は大きな成果があったと思われる。進路指導においては、職業をイメージさせながら進路として大学進学を考えるように指導した。学年団による進路講話や外部講師による進路説明会や保護者集会など多くの機会を設定することで、大学進学を生徒だけでなく、保護者にも身近なものにすることができた。今後は、進学だけでなく生活面や心のケアマネジメントに関する外部講師による講話も取り入れ、進学・生活両面での向上を目指したい。また、高校では、高校1年の国公立大学キャンパス見学会の実施により、大学が身近な存在となり生徒たちの目標設定にとても役立っているので、今後も続けていきたい。新入試で求められる学力「主体性・多様性・協働性」を涵養するためにも、自分の課題について他社の意見を聞いたり、解決したりすることも経験させたい。最終学年の進路結果について、国公立大学の合格者数が昨年同様に減少した。卒業生の数の違いもあるが大いに反省すべき点ととらえ、より多くの生徒の目標が達成できるよう原因確認し、つながりのある進路指導を目標に、授業の精査もしていきたい。来年度の大学入試改革に向けて、各教科会議を中心に研究授業を設定し先生方のスキルアップを計り、シラバスの改善を今年も行った。また、ICT教育の充実を目指し、全教室・演習室にプロジェクター設置が完備した。令和2年度は、高校段階でClassiが全学年で導入予定である。</p>		
本年度の重点目標	具体的目標	総合評価	
国際人を育てる教育	1. 留学制度の充実 2. 進路指導の充実 3. 学力をつける授業の充実 4. 国際交流制度の充実 5. 卒業生・在校生の満足度向上 6. 施設・設備の充実	進路目標を明確にした授業編成により、生徒の進路への意識が高くなかった。今年は、中学1年～3年まで実施している社会見学（校外学習）をキャリア教育に活かせるように取り組んだ。これからは中学から高校段階へ、今以上に繋がったキャリア教育を目指していく。また、60分授業も浸透し、時間割の再編・授業編成・シラバスの改善が進んできた。中学校・高校のクラブ活動開始に伴う活動時間・監督指導方法においては、校内での活動方針（運動部の在り方）を定め、各クラブでの活動予定に伴う同記録を明確にするようにした。また、現状の評価に甘んじることなく学業・行事・部活動の向上および推進を図った。	
入学志願者・入学者の安定確保	1. 六年一貫教育の充実のための内部進学の充実 2. 外部児童・生徒募集の充実	令和2年度は高校全学年でClassiを導入される予定で、引き続き2020年度大学入試改革に向けてICT化を促進する。	
教育の意識改革・行動改革の実施	1. 教科会議の充実 2. 教員組織の改革 3. 学校評価の導入 4. 教員評価制度の導入	令和2年度は高校全学年でClassiを導入される予定で、引き続き2020年度大学入試改革に向けてICT化を促進する。	

2. 教育活動に関する評価

評価項目	具体的目標・具体的方策	評価指導	自己評価結果	
学校運営計画	学校運営方針	誠実・明朗を旨とする。宗教的情操教育に基づく躾教育と、勉学あるいはスポーツに専念することによる能力開発を柱として豊かな心を持つ教養人の育成を目指す。	A	
	学業面、人格形成面、両面において、自己開発、自己鍛錬する生徒の育成。	学力向上のための努力を自主的にする生徒の育成。 勉強への取り組みを通して、人格形成面での効能をひきだす。		
		社会的マナー意識の向上を図る。		
	教師として、専門的力量、人間的魅力、規範意識を高め、生徒の尊敬に足る教師をめざす。	教科力を高めるべく進んで教材研究に取り組む。難関大学の入試問題を解くなど、知識と技能を高め、それを生徒に還元する。 生徒一人一人を大切にし、常に真心をもって対応することで、皆が生き生きとした学校生活を送られるように支援する。		
教科指導	自立的学習態度の確立	家庭学習(中学3時間／日、高校5時間／日)をノルマとし、予習・復習のローテーションを確立させ、発展的な学習にも取り組ませる。	B	A
		学習計画の立て方や実行について、個々に適切なアドバイスを与える。	A	
	確かな学力の養成	授業や課題における学習内容を全員に完全修得をさせる。	B	A
		上位者を意識した高度な内容の導入や課題提供を工夫するとともに、休日における演習量確保のための宿題提示を工夫する。	A	
	組織的な学習指導の体制	教科担任、クラス担任、学年の三者が連絡を密にして生徒の学習状況を的確に把握し、補習などを学年で計画的に実施する。	A	A
		教科会議を活発に行い、教材やその扱い方を十分に検討し、年度による学力レベルの差がないようとする。	B	
	授業力の向上	規律ある授業運営を行い、各授業の目標を明確にし、内容を確實に生徒に定着させる。	A	A
		小テストなどを積極的に取り入れ、生徒の理解度に合わせた授業展開を行う。	A	
人権教育	同和・人権教育の推進	年間計画に基づく同和・人権教育を実施するとともに、公的機関による各種推進活動や私学協会主催研修会への参加を行う。	A	
	生徒の人権意識の向上	人権作文コンクールや各種募金活動への参加、社会的モラル・マナーの学習などを通して「思いやり」の心を育み、正しい相互理解と協調性の向上を図る。	A	A
		学校行事への取り組みを通して、クラス・学年における仲間作りの推進を図り、友情を育むことで他を大切にする心を養成する。	A	
	教師の人権意識の向上と人権教育の指導力向上	同和・人権教育の関連図書を充実させるとともに、同和・人権教育研修会等に参加することによって、ホームルーム活動における教材活用法の技能向上を図る。	B	

評価は4段階【A：十分である（よくできた），B：ほぼ十分である（できた），C：あまり十分でない（あまりできなかった），D：改善を要する（できなかつた）】

評価項目	具体的目標・具体的方策	評価指導	自己評価結果	
生徒指導	登下校時を中心としたマナー向上と安全教育	ホームルーム活動における啓蒙や、登下校時の立哨を通じて、通学時の電車・バス・自転車・徒歩それぞれに応じた通行マナーの指導をし、その向上を図る。	A	A
		不審者情報などの把握に努め、生徒の通学における安全を確保する。	A	
	組織的な生徒指導体制の確立	担任による三者面談を学期ごとに実施し、中1・高1の新入生(陸上・野球部は除く)においては、教頭が三者面談を実施する。	A	A
		不登校生徒については、担任が主となり、校長・生活部・学年と密接に連携して、状況の改善を図る。	A	
		学年主任・担任・副担任により、学級の団結力や所属意識を強くして、支え合える学級作りに取り組む。	A	
	基本的生活習慣の確立	教師・生徒共にチャイムと同時の授業開始を守る。	A	A
		授業姿勢をしっかりと保ち、集中して積極的に授業を受けるようにさせる。	A	
		清掃活動に誠意を持って取り組む姿勢を養い「気づく力」「工夫する力」「感謝の心」を養成する。	A	
		校内外を問わず、正しい服装を徹底させ、自主的にルールを守ろうとする姿勢を養う。	A	
		家庭での学習時間と睡眠時間の確保を両立させ、朝食を必ず摂るなど、規則正しい生活を行わせる。	A	
進路指導	難関国公立大学を目指した指導体制の確立	低学年における基礎力の完成と演習量の確保、高い目標設定への早期意識付けを行い、生徒の能力を最大限に引き出す教科活動を工夫して、早期からの大学進学に向けた自立した学習姿勢の確立をめざす。	A	A
		大学入試問題の研究を絶えず行い、教師自身の教科力向上に努める。	A	
		各方面の研修会について、開催情報の周知と研修会への参加を促進する。	B	
	生徒・職員への進路情報の提供	学年ごとの到達レベルと合格可能大学の関連性を正しくつかんで指導に生かすため、校内外の模試の成績について、検討と対策のための会議や資料の配付を充実させる。	A	A
		教員対象の進学研修会を実施するとともに、予備校等の進学指導会に積極的に参加し、最新の進学情報を入手する。	B	
		生徒対象の進学指導会を開催して最新の大学入試情報を提供し、学習方法や目標設定と学力の目安についてなどを知らしめる。	A	
		個別面談により、各生徒の希望する進路に応じて必要な情報を提供する。	A	
	将来への希望を叶えるための意欲を高める指導	職業調べ活動をホームルームの中で行い、将来への希望を育む。	A	A
		東大・国公立大学の大学見学やオープンキャンパスへの参加を企画し、生徒の目標の具体化、親近化を図る。	A	
		授業を通して、教科への興味付けを工夫し、能力開発につながる好奇心を醸成する。	A	

評価は4段階【A：十分である（よくできた），B：ほぼ十分である（できた），C：あまり十分でない（あまりできなかつた），D：改善を要する（できなかつた）】

評価項目	具体的目標・具体的方策	評価指導	自己評価結果	
広報・生徒募集	地域に信頼される学校を目指した広報活動の充実	学校説明会や中学校・学習塾訪問の実施、学校紹介ビデオ・学校案内冊子の作製を積極的に行い、本校への理解をより深めてもらい、進学希望の掘り起しを図る。	A	A
		学校に対する外部からの意見や指摘には真摯な対応をし、生徒・教員全体に注意を喚起するとともに、以後の教育体制の検討・改善に努める。	A	
	保護者との連携を深める活動	メール到達確認サービスを導入し、個人情報の保護に留意しつつ活用する。	A	A
		保護者総会を実施し、「育友会」経理状況や活動状況の報告を行う。	A	
		地区別懇談会を隔年に実施し、情報提供・意見交換に努め、学校と保護者、あるいは保護者同士の連帯を深める。	A	
	情報化の推進	校内 LANによる資料の共有化と再利用により、情報に係る作業の効率化を図る。	B	B
		成績情報の電子化を推進し、迅速な生徒個々への対応を実現するとともに面談等でのネットワークの活用を促進する。	B	
		外部向けホームページの公開により、学校行事・教育内容・進学実績・学校説明会など学校に関する情報を広く提供する。	A	
	行事等の適切な企画運営	年度初めに年間行事予定を提示し、さらに各月各週の予定については随時提示して、各行事の円滑な実施を図る。	A	A
		式典や学校行事については、実施要項の作成配布および打合せを行い、全職員の統一意識のもとで安全かつ円滑な実施を図る。	A	

評価は4段階【A：十分である（よくできた），B：ほぼ十分である（できた），C：あまり十分でない（あまりできなかった），D：改善を要する（できなかった）】

3. 保護者による学校評価

評価項目	評価内容	評価結果(平均値)
1. 全体の印象	教育目標が明確で、特色ある教育を実施している。	1.4
2. 学習指導	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている。	1.5
3. 進路指導	進路目標を明確化に向けた適切な指導が行われている。	1.6
4. 生徒指導	挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立に関する指導が行われている。	1.3
5. 教育相談	必要なときに相談に応じてくれる体制ができている。	1.4
6. 学校行事等	有意義な学校行事がある。	1.6
7. 施設・設備	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている。	1.3
8. いじめ問題	学校として、日頃からいじめの早期発見に取り組んでいる。	1.4
9. 家庭との連絡	家庭への連絡や意思疎通をきめ細かく行っている。	1.4
10. 総合満足度	学校生活は充実している。	1.3

評価項目	具体的目標・具体的方策	評価指導	自己評価 結果
------	-------------	------	------------

評価は4段階【1：十分である（よくできた），2：ほぼ十分である（できた），3：あまり十分でない（あまりできなかつた），4：改善を要する（できなかつた）】